

筆いただいた。心より感謝申し上げたい。

来る2019年4月1日に、東京大学大学院経済学研究科は創立100年を迎える。筆者も本特集の「1950年代のアダム・スミス文庫に関する覚書」校注に関わり、牧野・福田両氏の論考を読み、はたまたこれらの資料現物を目の前にして、100年という歳月の長さ、先人たちの学術的営為に深く思いを馳せた。新たな100年に向けて、この蓄積を資料という形で次の世代に引き継いでゆくことこそ、当室に課された使命の一つであるとする。

新たな100年を目前にして、残念ながら、今年には名誉教授の諸井勝之助、佐伯尚美、中西洋の三先生が逝去された。このうち当室と深く関わってくださったのは、佐伯・中西の両先生である。佐伯先生は、ちょうど現在の資料室が開室したころに大内力先生の未発表原稿の当室への寄贈に尽力いただいた。この原稿のうち「インフレーションと日本農業」は2011年に大内力先生遺稿刊行会編として山愛書院から公刊されている。今年完成した経済学図書館の展示施設に、こういった先学の自筆原稿などの資料も、いずれ展示する機会を設けようと思う。

中西先生は時折、ふらりと資料室にお越しになり、古今東西の様々な事象について縦横無尽に先生のお考えをお話くださった。晩年の先生は特に中国やインドなどのアジアにご関心があったようで、私が偶々、中国史の専門であったために、いろいろな疑問・質問を投げかけてくださった。ご病気により、お体が思うように動かなくなっただけからは、電話でいろいろな質問を賜った。質問は抽象的で難しいものが多く、一生懸命に調べて回答を差し上げたが、私の学力では先生の満足できる回答になっていなかったのではないかと、今も危惧している。

三先生のご冥福を心よりお祈りしたい。

編集後記

本年度の年報では、「東京大学経済学図書館所蔵貴重図書の研究」と題して特集を組み、『英米合作経済抗戦力調査』、「アダム・スミス文庫」、「ケインズ/ハロッド文書」について、改めて調査・整理・研究した成果を公表することができた。なかでも牧野邦昭氏には、ご自身が古書店で発見された『英米合作経済抗戦力調査（其二）』を当室に寄贈いただいた上、重厚な解説論文を執

今年度末で研究科長の持田信樹先生が定年で退職される。持田先生は当室が現在の体制になった際の初代室長であった。資料室の基盤を作るにあたっては、持田先生の調整能力に拠るところが大変に大きかった。

また、小野塚知二室長も今年度末で室長の任期が満了となる。今年度はアジア研究図書館長にもなられ、お忙しいなか経済学図書館や経済

学部資料室のために尽力いただいた。特にこの二年間は財政面と人事面で懸案事項を多く抱え、大変な時期に室長を務めていただいた。

お二人の先生に改めて感謝申し上げるとともに、今後の益々のご研究の進展とご健康をお祈りしたい。

(小島浩之)